

2020年度事業報告

自 2020年4月1日

至 2021年3月31日

2020年度は、新型コロナウイルス感染症拡大という未曾有の難局に直面して協会運営も困難を極めました。が、会員第一を念頭に当協会の果たすべき役割について概ね所定の成果を得ることができました。

1. 施設協会では、JR各社、民鉄各社に鉄道・運輸機構及び関連会社を加えた、全国の鉄道施設部門に対して、「情報提供」や「情報交換の場」「交流の機会の場」を設定して、鉄道施設技術やノウハウを「横」と「縦」に繋ぐ取り組みを進めてきました。
 - (1) 協会活動の基幹的なツールである協会誌については、東日本大震災から10年の節目の特集実施など、鉄道施設を取り巻く大切な課題を意識した編集に努めました。また、将来を担う若年層に向けて「若手技術者のための土木講座」、資格取得支援のための「新受験ゼミナール」の連載を行うなど、内容の充実に努めました。また、業務資料シリーズとして連載された「用地・協議関係」と「保線機械の管理」について冊子化し会員に無料配布しました。
 - (2) 鉄道施設関係者のための技術の振興と発展および情報交換の貴重な場である各種発表会等については、コロナ禍のなかでも会員からの開催の要請を踏まえて、オンライン方式により開催しました。これによりこれまで会場での情報提供に限定されていたものを、全国配信を実施したことにより、より広範囲の展開を実施しました。また、各種講演会等においては、昨年度に引続き交通新聞社から後援を頂き、優秀な発表について交通新聞に掲載し、参加者の意欲高揚に取組みました。
 - (3) 協会賞には、功績賞3名、技術賞12名、施工技術賞11名及びプロジェクト10件(31名)、論文賞27編(59名)、著作賞1編及び保安賞35名の方が選ばれました。
 - (4) 民鉄の施設分野からの活動への更なる参画や若手技術者層を意識した企画の推進等の取り組みの更なる充実により、普通会员についてはJR移行後最高となる9,960名を超える会員数となりました。
2. 施設協会が有する「公的性格」を有効に発揮することで、公民鉄各社の独自の取り組みがより社会的信用の増大に繋がることを目的にした取り組みを進めてきました。

- (1) 保安関係講習会については、確実な工事従事資格の継続により円滑な工事実施に支障しないように、新型コロナ感染拡大で延期になった講習会を年度内に完結するため受講会社等と連携して取り組みました。また、講習会実施において感染拡大につながる事のないような万全の取り組みにより、9万人を超える受講者から一人の感染者も出すことはありませんでした。
- (2) 保安講習事業の基幹システムである「保安講習会管理システム」について札幌事務所に開発導入し、受講者の保安講習会申し込み手続きの簡素化等サービスレベルの向上に取り組みました。
- (3) 民鉄からの保安関係講習受託については、西武鉄道、東急電鉄および小田急電鉄に続き、新たにつくばエクスプレスの保安講習会を開始、体制やシステム整備等によりその定着に努めました。
- (4) 調査研究として、「鉄道の土木技術基準に関する検証とその対応の方向性等に係る調査検討（国土交通省）」を受託・実施しました。また、「鉄道土木構造物アセットマネジメント検討委員会の運営（JR 東日本）」では、それぞれ専門家の指導を得ながら内容の充実した委員会運営を行いました。

なお、地方鉄道事業者教育として長年継続している「軌道の維持管理講習会」については、新型コロナ感染症防止の観点から中止しました。
- (5) 技術検定試験については、協会が実施する試験として見直し、JR 東日本及び JR 北海道に加え、第三セクターの鉄道事業者、協力会社出向者等及び関東民鉄まで拡大実施しました。また、更なる拡大を進めるため関西民鉄3社を対象に試行的な試験を実施しました。
- (6) 国土交通省や JR 各社等の要請を受けて取組んだ「外国人技能実習制度」へ軌道の保守工事職種追加については厚生労働省の認可を受けることができました。これから当協会は評価試験実施機関として試験の運営・実施を担って行くことになりました。
- (7) 叙勲について春3名に続き、秋の叙勲についても5名の民間企業関係者の方が受賞の栄に浴されました。
- (8) JIS 原案管理団体として、業界からの要望を踏まえて、「軽レール」について見直しを実施するとともに、日本工業標準調査会（JISC：経産省）における「技術専門委員会（鉄道技術等）」及び国際標準化戦略計画会議、インフラワーキング等に参加し積極的に対応しました。
- (9) 「鉄道設計技士（土木部門）試験」の受験対策講習会を前年度に引き続き実施し29名が受講しました。

なお、事業報告の内容を補足する事業報告書附属明細書は別紙のとおりです。

事業報告書附属明細書

I 会 務 (敬称略)

1 会員数 (令和3年3月31日現在)

- (1) 普通会員 9,527人
- (2) 特別会員 933社

2 総会・委員会等

(1) 第10回通常総会

- 日 時 令和2年6月9日
- 場 所 東京都豊島区西池袋 ホテルメトロポリタン池袋
3階「光の間」
- 議 事 報告事項 ①2019年度事業報告
②2019年度公益目的支出計画実施報告
③2020年度事業計画及び収支予算
決議事項 ①2019年度決算
②役員を選任

(2) 理事会

(3) 企画委員会

(4) 財務委員会

(5) 保安事業委員会

(6) 叙勲及び表彰選考委員会

(7) 功績賞等選考委員会

(8) 協会誌編集委員会

企画、用地・協議、線路、土木、鉄道工事と安全各分科会

(9) 論文賞等選考委員会

(10) 保安賞選考委員会

(11) 支部総会等

北海道	総会 (令和2年7月10日)	評議員会等
東北	総会 (令和2年7月30日)	評議員会等
関東	総会 (令和2年6月9日)	評議員会等
中部	総会 (令和2年7月15日)	評議員会等
関西	総会 (令和2年7月20日)	評議員会等
中国	総会 (令和2年7月20日)	評議員会等
四国	総会 (令和2年7月17日)	評議員会等
九州	総会 (令和2年6月19日)	評議員会等

3 登記等

(1) 登記 (令和2年6月17日)

2020年度 役員の変更、就任 (再任11人、新任5人)

(再任)

家田 仁
栗田 敏寿
小池 吉博
近藤 邦弘
田村 修
中西 雅明
長谷川雅彦
林 康雄
古瀬 円
宮林 秀次
柳下 尚道

(新任)

井上 陽一
大竹 敏雄
小山 宏
倉田 忠司
中井 雅彦

2020年度 監事の変更、就任 (再任1名)

菊田 旭

『プロジェクト』 10件 31名

東北支部	田沢湖線羽後長野・鏝見内間齊内川橋りょう改築他	JR 東日本	井上 崇 鈴木 隆裕 舟腰 憲二 木村 正喜
関東支部	渋谷駅改良（山手・埼京線ホーム並列化）	JR 東日本	大野 賢二 星野 正 藤澤 充哲
	東京駅北通路周辺整備	JR 東日本	辻 浩一 西澤 政晃 渡邊 大輔
	散布量調整機能付き軌間内散布型ミニホキの開発と導入	JR 東日本 仙建工業 仙建工業	森 政明 本田 智文 佐々木 亨
	鉄道の河川氾濫に対する浸水対策 ～車両疎開判断支援システムの開発・導入～	JR 東日本	田中 淳一 佐藤 大輔 中渕 遥平
	飯田橋駅改良（軌道・ホーム低下工事）	JR 東日本	園田 弘世 長嶋 秀幸 中野 泰伸
	上越線塩沢・六日町間樋渡Bv新設（玉石・礫混じり地盤における地盤切削 JES 工法）	JR 東日本 JR 東日本 JR 東日本 鉄建建設	吉田 直人 永井 新悟 石田 将貴 村田 浩平
中部支部	在来線における新たな降雨運転規制の導入	JR 東海	石川 智史 浅野 嘉文 林 宏樹
	東海道新幹線浜名橋りょう橋脚の再塩害化防止工事の施工方法確立	JR 東海	川崎 剛一 讃岐 賢太 芝田 達也
関西支部	山口県長門地区における保守間合拡大による軌道工事推進と働き方改革	JR 西日本	近重 宏徳 鈴木 崇士 川下 彗

【施工技術賞】

『 個人 』 11名

北海道支部	札建工業	森下 豊一
東北支部	第一建設工業	武部 真悟
	仙建工業	土井 克浩
関東支部	第一建設工業	堀内 篤
	ユニオン建設	松本 泰平
	双葉鉄道工業	岸 尚喜
	鉄建建設	岡部 義雄
中部支部	シーエヌ建設	林 秀樹
	名工建設	佐藤 久則
関西支部	大鉄工業	東田 博明
九州支部	九鉄工業	森山 貞文

【論文賞】

27編 59名

部門	編	論文名	執筆者	社名
用地・協議	3	境界紛争を原因とする用地侵害行為への対応	清水 敦仁	JR 四国
		豪雨に伴う高山本線の被災と復旧	久保田哲雄 鈴木 俊輔	JR 東海
		複線化計画に伴う宅地開発区域内の避難経路予定地の付替処理	瀬戸 薫	JR 西日本
企画	6	先人が築いた雪崩防止林	真柄 敬 桑原 正憲 大内 真 長橋 優	青葉緑化工業 " " JR 東日本
		インド国デリー都市鉄道建設の主な経緯と特性	大澤 伸男	トーチコンサルタント
		インド高速鉄道プロジェクトの進捗と人材育成に向けた取り組み	篠田 秀徳 白石 啓明	JR 東日本
		働きやすい職場環境をめざして・・・「軌道工の明るい未来のために！」	鯉淵亜紀子 浅井 智子 前川 明子	菅原興業
		シンガポール地下鉄営業線直下での新設トンネルの築造	橋田 薫 多田 博光	大成建設
		鉄道インフラ海外展開を進める上での課題及び注意点	鳥居 興彦	インターナショナルエンジニアリング&マネジメント
線路	9	下級線用低廉型ロングレールの開発	吉川 秀平 高尾 賢一 敷中 嘉彦	JR 西日本
		新型保守用車「MOBILE MAINTENANCE UNIT」の導入	神谷 俊晴 赤松 秀彦 萩尾 泰弘	JR 東日本
		新型熱処理レールの導入とレール使用区分の改正	品川 恒平 元好 茂 安藤 洋介	JR 東日本
		酷暑期間における芸備線 PC まくらぎ化施工	古本 幸彦 野口 卓也 村山陽一郎 木下 隆介	広成建設 大鉄工業 レールテック JR 西日本
		トンネル内 16 番 SC 分岐器改良工事における新工法の検討・実施	杉野 圭一 金川 周平 米原 善秀	東京地下鉄
		分岐器における脱線事故とその対策	明圓 桂一	日本線路技術
		列車巡視の省力化のための画像解析技術の開発	川崎 恭平 清水 惇 三和 雅史	鉄道総研 元) 鉄道総研 鉄道総研
		テルミット溶接の脱特殊技能化の現地試験	井上 拓也 高尾 賢一	JR 西日本
		地震対策に伴う岐阜羽島駅構内スラブ軌道のバラスト軌道化工事	吉田 真規	JR 東海
土木	8	中央本線青柳駅ホーム打上工事における高強度発泡スチロールブロックを活用した施工	宇多 礼奈 山上 吉也 戸田 博明 櫛原 裕希	JR 東日本
		土木構造物検査の車上化に向けた開発	岡 義晃 桶谷 栄一	JR 西日本
		距離値のみで計算不要 建築限界測定システムの開発	安達 竜治	JR 北海道
		くし状音床導入によるホームと車両の隙間対策	阿部 慎也 土屋 啓佑 佐藤 保大 高橋 宏聡	JR 東日本
		山陽新幹線トンネルにおける覆工検査データの分析	鎌田 和孝	JR 西日本

		濱田 吉貞	
	アメダスデータを用いた融雪災害の危険度評価手法	高柳 剛 佐藤 亮太	鉄道総研
	トンネル内路盤鉄筋コンクリート新設工事における工具朕縮の検討	一松 昭徳	三軌建設
	乗換線橋新設工事における BIM の活用	三瓶 晃弘	鉄建建設
	東京メトロにおけるトンネル塩害対策補修工事の概要	野本 一美 安達 光成	東京地下鉄 メトロールファシリティーズ

【保 安 賞】

35 名

支部	氏名	所属会社
北海道支部	寺内 航	北海道軌道施設工業
	齋藤 和哉	札建工業
東北支部	佐々木重利	ユニオン建設
	高野 則雄	仙建工業
	鵜木 強	第一建設工業
	川畑 拓実	仙建工業
関東支部	原 義政	ユニオン建設
	高橋 正史	大林組
	野口 勝志	第一建設工業
	森川 太一	双葉鉄道工業
	小野 玄治	鉄建建設
	桑名 隆行	東鉄工業
	上松 瑞貴	交通建設
	田沼 修	清水建設
	山崎 典彦	日本線路技術
	安達 良治	日本機械保線
	上村 孝志	全溶
	貞末 和宏	鹿島建設
	河野 謙次	東鉄工業
	齋藤 大輔	交通建設
若林 学	双葉鉄道工業	
武尾 伸行	小田急エンジニアリング	
中部支部	望月 紀男	名工建設
	都築 秀志	ジェイアール東海建設
	池本 良三	シーエヌ建設
	相沢 弘道	名工建設
関西支部	吉川 章博	大鉄工業
	中島 幸男	大鉄工業
	松本 修作	大鉄工業
	藤本 龍彦	レールテック
中国支部	伊佐 和善	レールテック
	谷口 勝志	広成建設
四国支部	神田 久	四国開発建設
九州支部	坂本 佳則	九鉄工業
	岡田 誠	三軌建設

Ⅲ 行事(敬称略)

1 総合技術講演会

部門別講演

- ◇ 保線/発表件数 14 編 (令和2年10月20日)
- 最優秀賞 接着絶縁継目検査の省力化に向けた取り組み
JR 東海 高浦 真行
- 交通新聞社賞 高頻度測定による新たな遊間管理手法の策定
JR 東海 加藤 隆
- 優秀賞 2 編
- JR 東日本 中郷 智
JR 東日本 駒木 拓也
- 審査委員特別賞 2 編
- 鉄道・運輸機構 宇野裕太郎
南海電気鉄道 梶原 浩二
(審査委員長 JR 東日本 顧問 大井清一郎)
- ◇ 調査・計画/発表件数 7 編 (令和2年10月21日)
- 最優秀賞 横須賀線武蔵小杉駅混雑緩和対策
～JRE-BIM を活用したフロントローディングによる早期対策の実現～
JR 東日本 宮田野乃香
- 優秀賞
- JR 東日本 田中 淳
- 審査委員特別賞 1 編
- JR 東海 伊東 光
(審査委員長 ジェイアール東海コンサルタンツ 顧問 森下 忠司)
- ◇ 建造物検査/発表件数 9 編 (令和2年10月21日)
- 最優秀賞 経年 80 年を超える丹奈トンネルにおける漏水対策
JR 東海 飯久保雄太
- 交通新聞社賞 山陽本線光・下松間における数値標高モデルを用いた斜面崩壊リスク箇所の
抽出と列車運行への影響に関する検討
JR 西日本 野村 和良
- 優秀賞 1 編
- JR 東日本 古久根晋太郎
- 審査委員特別賞 1 編
- JR 四国 山下 裕輔
(審査委員長 ジェイアール総研エンジニアリング 代表取締役社長 市川 篤司)
- ◇ 土木工事施工/発表件数 14 編 (令和2年10月22日)
- 最優秀賞 東京駅北通路周辺整備
～北通路拡幅及び新たな駅空間の創出～
JR 東日本 今野 浩孝
- 交通新聞社賞 渋谷駅ホーム並列化(350m 移設) 工事
～工事桁 47 連(422m) の同時こう上横移動～
JR 東日本 大谷 拓也
- 優秀賞 2 編

JR 東海	川崎 剛一
JR 九州	池邊 開
審査員特別賞 2編	
JR 西日本	郷原 惇
鉄道・運輸機構	折敷瀬翔耶
(審査委員長 日本交通技術 専務取締役 三輪 誠)	

2 鉄道施設技術発表会 (令和2年11月27日)
部門別発表

◇ 保線／発表件数18編

最優秀賞	新幹線スラブ軌道新設における3D測量を利用したCAM注入厚測定法の開発	
	大鉄工業	平野健一郎
交通新聞社賞	新幹線レール削正品質評価試験	
	レールテック	服部 哲
優秀賞 2編		
	日本機械保線	並木 聖東
	四国開発建設	高木 政彦
審査員特別賞 2編		
	仙建工業	前田 昂太
	小田急エンジニアリング	猪俣 竜太
(審査委員長 JR 東日本 設備部 次長 原田 彰久)		

◇ 土木／発表件数18編

最優秀賞	新幹線高架橋絶縁目地の漏水補修工法の開発と施工	
	第一建設工業	丸山 哲郎
交通新聞社賞	浜名湖内における新幹線橋梁の橋脚修繕工事	
	名工建設	伊藤 祐樹
優秀賞 2編		
	ジェイアール東海建設	西尾 亮
	建設塗装工業	赤堀 太一
審査員特別賞 1編		
	シーエヌ建設	田口 仁
(審査委員長 JR 東日本 設備部 次長 下山 貴史)		

3 用地・協議業務研究会 (令和2年9月11日)

講演者

2019年日本鉄道施設協会用地・協議部門論文賞受賞者および優秀論文	
JR 東日本	小笠原康之
JR 西日本	山家 政司
東急電鉄	星野 光男
JR 西日本	北口 貢
JR 東日本	松本 豊

特別講演

『所有者所在不明土地問題への法的対応の現状と課題』
慶応義塾大学 大学院法務研究科教授 グローバル法研究所長 松尾 弘

4 講演会等

北海道支部

◇「北海道の開発の今」 (令和2年7月10日)

一般社団法人 寒地港湾空港技術センター 所長 笹島 隆彦 氏

◇「後志地区 北海道新幹線及び高速道路建設工事見学会」 (令和2年10月28日)

中部支部

◇「北陸新幹線 福井開発高架橋及びあわら工区軌道敷設工事現場視察」

(令和2年10月16日)

関西支部

◇「令和2年度 鉄道施設技術発表会(保線部門)」関西・中国支部共催

(令和2年10月7日)

中国支部

◇「令和2年度 鉄道施設技術発表会(保線部門)」関西・中国支部共催

(令和2年10月7日)

四国支部

◇「技術講演会」 (令和2年7月31日)

◇「土木工事写真展(高松駅コンコース)」 (令和2年11月12日～19日)

◇「四国新幹線の実現に向けた取り組みについて」 (令和2年11月9日)

四国新幹線整備促進期成会 会長 千葉 昭 氏

IV 調査研究等

国土交通省

鉄道の土木技術基準に関する検証とその対応の方向性等に係る調査検討

主 査 北海学園大学 名誉教授 上浦 正樹

JR 東日本

鉄道土木構造物アセットマネジメント検討委員会の運営

委員長 長岡技術科学大学 名誉教授 丸山 久一

鉄道設計技士(土木部門)受験対策講習会の実施 (令和2年7月4日)

鉄道技術検定業務の実施 (令和2年10月31日)

厚生労働省

外国人技能実習制度に係る鉄道施設保守整備(軌道保守整備作業)の職種追加

第3回専門家会議 (令和2年6月15日)

トライアル試験 東京 (令和2年12月7日)

第1回評価WG (令和2年12月16日)

第2回評価WG (令和3年1月29日)

第1回評価試験委員会 (令和3年2月12日)

V 保安関係講習会等

講習会	実施回数	講習人員
工事管理者（在来線）	217	9,022
工事管理者（新幹線）	85	3,439
軌道工事管理者（在来線）	69	2,721
軌道工事管理者（新幹線）	42	1,140
重機械運転者	295	9,753
特殊運転者（MC）	50	1,820
特殊運転者（新幹線MC）	22	762
特殊運転者（MTT）	15	151
軌道作業責任者（在来線）	32	970
軌道作業責任者（新幹線）	16	284
民鉄関係	119	4,221
省令10条教育等	887	41,080
列車見張員その他	695	18,435
合計	2,544	93,798

VI 刊行

- 1 日本鉄道施設協会誌
- 2 土木工事標準仕様書（JR東日本編）改正版